

幻のカレイ

今回ご紹介するのは幻の魚、ホシガレイです。山口敦子教授に解説していただきます。

「ホシガレイは、北海道以南の日本沿岸から東シナ海、黄海にかけて分布するカレイ目カレイ科マツカワ属の魚です。最大で体長六十センチメートル、体重三キログラムに達します。近年では漁獲量が激減したことから「幻の魚」と呼ばれています。

「カレイ」の語源には諸説ありますが、その一つに「韓鱒」^{かんぼ}がありま

す。「韓国近海に多いエイ型の魚」という意味ですが、「新釈魚名考」には「韓とは、舶来品・上等な物の意味で使われた語であることから、エイより旨いエイ型の魚という意味にもとれ、これらのどちらかがカレイの語源ではないだろうか」と記されています。上等なカレイの中でも、群を抜いて上等なのがこのホシガレイなのです。

ご覧の通り大変美しい魚で、鱈にははつきりとした丸い黒斑があることから、ホシガレイと呼ばれるようになりました。学名（種小名）をあらわす *variegatus* も、斑点があることを意味するラテン語に由来します。有眼側の体色は、茶褐色の地の色に緑、橙、白色の斑点を散りばめたような色合いが重なり、深く輝いています。小さ

ですが、かれこれ十五年くらい前から全く見なくなったとい

有明海の浅い海域は幼魚の成育場だったでしょう。なんとかホシガレイを増やそうと、種苗生産と放流技術の研究が盛んに行われていますが、何より自然界での生態を解明することが肝心です。

カレイとヒラメをよく間違えます。「日本では、左ヒラメに右カレイと言われます。腹部を下に置いたときに左側に頭があるのがヒラメ、右にあるのがカレイです。同じカレイ目に属しており、一見よく似た顔つきに見えますが、大きな口に鋭い歯を備え、いざとなれば俊敏な動きで大きな魚にもガブリと噛み付くヒラメに比べ、カレイはおちよほ口。鈍い円錐状の歯で、甲殻類やゴカイ類などを食べています。ホシガレイは、浜値でもキロ単価一万円を超すこともあり、ヒラメを遥かに凌ぐ高級魚。高級料亭に買い取られたり、築地や関西の市場に送られたり、地元でお目にかかる機会は滅多にありません。何しろ研究用の材料を手に入れるのも至難の業で、展示した標本は何年もかけてようやく港で購入できたものでした。

キロ一万円ですか！ そんなに美味しいのでしょうか。「北大路魯山人の書には、『東京近海もののピカー、ホシガレイの洗いづくりの前には、関西のそれ

な粒状の石が敷き詰められたようなザラザラした体表（櫛鱗）にちなみ、東北地方ではハダガレイと呼ばれます」。

この図譜のホシガレイは、絵画的ですね。

「いいえ、まるで写真のように正確に描かれているのです。昨年秋季に本学図書館で開催されたグラバー図譜展では、この図の素晴らしさとホシガレイの美しさを多くの方にご覧いただきたくて、長崎産ホシガレイの標本も一緒に展示しました。「本物そっくり、すごい！」という驚きの歓声が聞こえてきましたよ」。

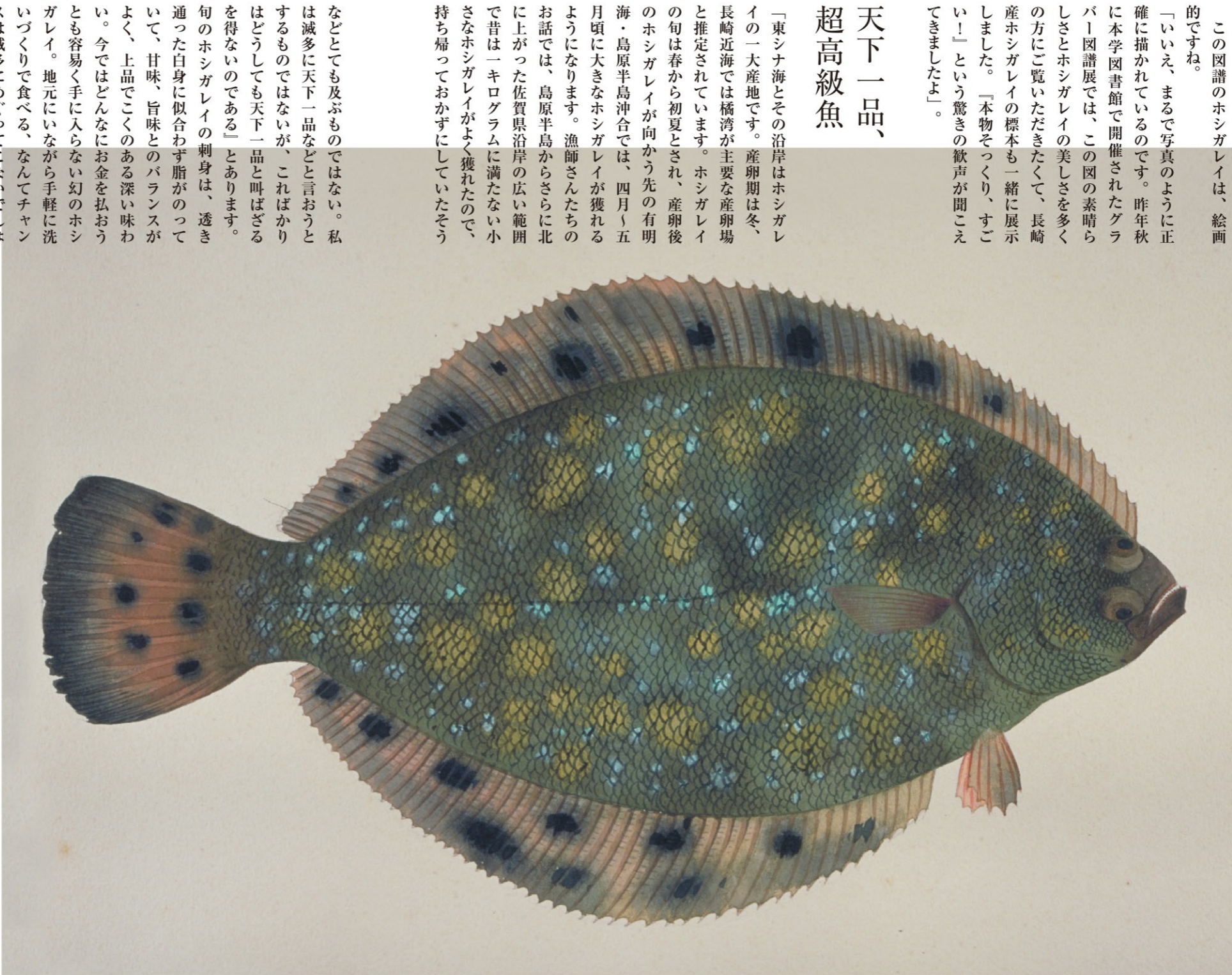
天下一品、超高級魚

「東シナ海とその沿岸はホシガレイの一大産地です。産卵期は冬、長崎近海では橘湾が主要な産卵場と推定されています。ホシガレイの旬は春から初夏とされ、産卵後のホシガレイが向かう先の有明海・島原半島沖合では、四月〜五月頃に大きなホシガレイが獲れるようになります。漁師さんたちのお話では、島原半島からさらに北上がった佐賀県沿岸の広い範囲で昔は一キログラムに満たない小さなホシガレイがよく獲れたので、持ち帰っておかずにしていたそう

などとても及ぶものではない。私は滅多に天下一品などと言おうとするものではないが、こればかりはどうしても天下一品と叫ばざるを得ないのである」とあります。

旬のホシガレイの刺身は、透き通った白身に似合わず脂がのっていて、甘味、旨味とのバランスがよく、上品でこくのある深い味わい。今ではどんなにお金を払おうとも容易く手に入らない幻のホシガレイ。地元にながら手軽に洗いづくりで食べる、なんてチャンスは滅多にめぐってこないでしょう。でも、もしも幸運が訪れたときには魯山人に倣い、「クロダイの洗いよりは少々厚めに作り、水洗いしたものを舌上に運べば」、まさに天下一品の美肴を楽しめるに違いありません」。

手の届かないホシほど、味わってみたいですね。



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさ危機」(東海大学出版)など。

Glover Atlas

ホシガレイ

variegatus

画家 小田紫星

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern & Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>